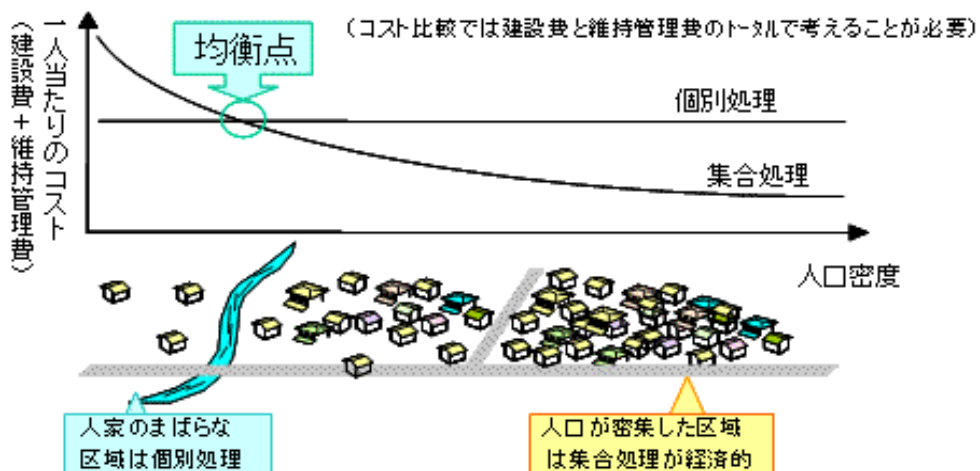


全県域汚水適正処理構想策定

主な生活排水処理施設の特徴

項目	下水道	農業・漁業集落排水施設等	浄化槽
①施設の特徴	大規模集合処理方式 ・管渠により汚水を収集し、処理場で一括処理する。	小規模集合処理方式 ・管渠により汚水を収集し、処理場で一括処理する。	個別処理方式 ・各家庭の敷地に浄化層を設置し、排水を個別処理する。
対象とする生活排水	・市街地全体の多種多様な(家庭、学校、事業所、工場)排水を処理する。	・主に農業集落、漁業集落等の家庭排水を処理する。	・各家庭の排水を処理する。
②水質保全効果	安全した処理水質を確保できる。 (地方自治体が維持管理)	安定した処理水質を確保できる。 (公共団体などが維持管理)	汚水を高度に処理できる浄化槽もある。 (主に個人が維持管理)
③経済性	・市街化区域など人口密度の高い区域では、汚水処理にスケールメリットが働き、経済効率が良い。 ・耐用年数が長い。	・まとまった集落では、汚水処理にスケールメリットが働き、経済効率が良い。 ・耐用年数が長い。	・家屋が散在した地域では、集合処理よりも、経済効率が良い。 ・集合処理に比べ耐用年数が短い。
④着手してから使用できるまでの期間	通常5～20年程度 事業規模が大きいため、末端部において使用できる時期が遅れる。	通常3～5年程度 比較的早期に使用できる。	通常1週間～10日程度 すぐに汚水処理の効果が望める。

○コスト比較の概念図



※集合処理(下水道、農業集落排水事業)と個別処理(合併処理浄化槽)の一人当たりコスト比較においては、地域の特性等によって定まる均衡点が存在